

1- 1 1 倫理学

研究・教育活動の概要と特色

倫理学専攻分野は哲学専攻分野とともに、研究教育活動を常に共同で行っています。

一つには、東北哲学会の事務局として担当する五十有余年にわたる活動を持続し、平成 17 年度および今年度も東北地方を中心とする諸大学の研究者の研究発表大会（それぞれ第 54 回、第 60 回）を開催し、年報（それぞれ第 21 号、第 27 号）を刊行しました（毎年度同様に開催しています）。また、大正期よりの長い伝統である現象学研究をいまに引き継ぎ、毎年五月にはフッセル・アーベントを開催しました。

大学院生に対する教育活動としては、まず各院生の専攻研究と論文執筆を向上進展させるべく、研究発表会での討論と機関紙『思索』（2011 年度は第 44 号）への発表を指導しています。また、今日の社会と学界における応用倫理学の動向に因應するために、機関紙『Moralia』（2011 年度は第 18 号）を場として、生命・医療・環境・技術などに関する研究と論文発表を促進してきました。またこの『Moralia』に関しては、今年度は倫理学専攻分野が出版費用を受け持つ形で、広く大学内外に影響のある執筆者を募って刊行する予定です。

さらに昨年度から、他大学（弘前大学、盛岡大学等）の研究者を共同研究者として、あらたなプロジェクト「対話の垂直性について ハイパーダイアローグの包括的理解」（代表研究者：倫理学専攻分野教授・戸島貴代志）を立ち上げ、すでに本学他専攻分野（心理学）との共同開催で、2 回の研究集会を行いました。

また、2008 年度から 2009 年度にかけて市民参加型講義「日曜大学」がほぼ月に一度のペースで昨年度から行われ、「みやぎ県民大学」やホームページでの発信と相俟って、倫理学専攻分野による社会貢献の一つとなっています。

組織

1 教員数（2011 年 9 月末現在）

教授：1

准教授：1

講師：0

助教：1

教授：戸島貴代志

准教授：村山達也

助教：大森史博

2 在学生数（2011年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
36	0	8	6	0

3 修了生・卒業生数（2007～2011年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
07	4	0	1
08	5	0	1
09	7	1	0
10	0	0	0
11	2	3	0
計	18	4	2

* 2011年度は、9月末までの数字

過去5年間の組織としての研究・教育活動（2007～2011年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
07	0	0	0
08	2	0	2
09	0	0	0
10	0	0	0
11	0	0	0
計	2	0	2

* 2011年度は、9月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

大森史博、2008年度『メルロ=ポンティ後期存在論の帰趨 実存的永遠性に向かっ
て』

審査委員：教授・戸島貴代志(主査)、教授・座小田豊、准教授・荻原 理
 米原 優、2008年度『功利主義と人権 ミルにおける功利主義的権利論の検討』
 審査委員：教授・戸島貴代志(主査)、教授・野家啓一、准教授・直江清隆

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
07	2	3	0	0	5
08	2	0	0	0	2
09	2	1	0	1	4
10	0	0	0	0	0
11	0	0	0	1	1
計	6	4	0	2	12

* 2011年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
07	0	4	0	0	4
08	2	2	0	0	4
09	2	5	0	0	7
10	0	1	1	0	2
11	0	2	1	0	1
計	4	14	2	0	20

* 2011年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

横地徳広「身体とその過去—レヴィナスの場合—」、東北大学倫理学研究会編『モラリア』第14号、2007年。

米原優「ミルの寛容論 - 『自由論』における二種類のペナルティについて - 」、日本倫理学会編『倫理学年報』第56集、2007年。

米原優「パブリックジャーナリズムとコミュニタリアニズム、東北大学倫理学研究会編『モラリア』、2007年。

池田準「第5講カント」、『21世紀の哲学史—明日をひらく知のメッセー

- ジ』伊藤周史・齋藤直樹・菅原潤編、pp.64-80、昭和堂、2011年。
- 小原拓磨「現存在の精神病的変容とその世界」、東北大学哲学研究会編『思索』第40号、2007年。
- 小原拓磨「他者理解と自己内関係　メルロ＝ポンティにおける他者とまなざしの弁証法」、『東北哲学会年報』第26号、2010年
- 赤塚弘之「ハイデガーにおけるヒストリーエ解釈について」、東北大学哲学研究会編『思索』第42号、2009年。
- 赤塚弘之「若きハイデガーにおける歴史の問題について」、上智大学哲学会編『哲学論集』第38号、2009年。

(2) 口頭発表

- 横地徳広「認識の時間と図式—ハイデガー超越論的哲学の帰趨—」、実存思想協会、2007年6月。
- 米原優「ミルにおける快の質的区別について」、Bentham研究会、2007年2月。
- 米原優「なぜ「自由原理」は未開人に適用されないのか」、北日本哲学会、2008年1月。
- 米原優「ミルにおける二つの自由概念」、イギリス哲学会第32回研究大会自由課題発表、2008年3月。
- Masaru Yonehara, "Risk Perception and the Media", the 1st GCOE International Symposium, March, 2009.
- Masaru Yonehara, "Utilitarianism and Rawls", the 2nd GCOE International Symposium, February, 2010.
- 池田準「定言命法における叡知的意欲と人格」、実存思想協会、2009年9月。
- 小原拓磨「妄想的現存在と原光景」、北日本哲学会、2008年1月。
- 小原拓磨「＜私の死＞と喪の経験」、日本現象学会、2008年11月。
- 小原拓磨「主観性の起源へ　メルロ＝ポンティにおける他者とまなざしの弁証法」、東北哲学会、2009年10月。
- 小原拓磨「キアスム的他者関係　メルロ＝ポンティ後期思想からみる他者性」、日本現象学会、2010年11月
- Takuma Obara, "Technology and environmental movement", the 1st GCOE International Symposium, March, 2009.
- Takuma OBARA, "What is ethically problematic in Biogenetics?", The 2st GCOE International Symposium, February, 2010.

赤塚弘之「前期ハイデガーにおける「ヒストリー」について——『存在と時間』第2部の課題「哲学の歴史の解体」と第1部第2篇第76節の連関をめぐって」、東北大学哲学研究会、2009年6月。

赤塚弘之「初期ハイデガーにおける〈ヒストリッシュなもの〉と哲学の〈ヒストリッシュな考察〉の連関について 1920/21年講義『宗教現象学入門』を手がかりとして」、実存思想協会、2010年3月。

二階堂慧「メルロ=ポンティ『知覚の現象学』における身体了解の働き」、東北大学哲学研究会、2010年6月。

二階堂慧「他者との隔たりと共存 メルロ=ポンティにおける他者との共同性」、東北哲学会、2011年10月

田村康貴「ベクルソンにおける笑いと想像力」、東北大学哲学研究会、2011年6月

田村康貴「仮構と想像 ベルクソンとトリポーにおける神話の起源」、東北哲学会、2011年10月

3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

4 日本学術振興会研究員採択状況

なし

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2(2009年度)

5-2 留学生の受け入れ状況(学部・大学院)

年度	学部	大学院	計
07	0	0	0
08	0	0	0
09	0	0	0
10	1	0	1
11	0	0	0

計	1	0	1
---	---	---	---

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
07	0	0	0
08	0	0	0
09	1	0	1
10	0	0	0
11	0	0	0
計	1	0	1

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

米原優 静岡大学教育学部 2011年度
 齋藤直樹 盛岡大学文学部 2008年度
 横地徳広 弘前大学人文学部 2007年度
 竹之内裕文 静岡大学農学部 2005年度
 後藤敏行 青森中央短期大学 2004年度

7-2 専攻分野出身の高度職業人

中学教員 1名
 高校教員 4名

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

10 刊行物

『東北哲学会年報』（年刊）
 『思索』（年刊）

『モラリア』（年刊）

1 1 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

東北哲学会事務局 2006～2010年度

1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

東北大学哲学研究会 2006～2010年度

東北哲学会大会第55回大会 2005年度

東北哲学会大会第57回大会 2007年度

1 3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

倫理学専攻分野は、これまではどちらかという、個別倫理の実際的な探求よりは、およそ倫理というものが成立しえる人間存在そのものの原理的な探求が中心であった。ドイツ・フランスの現象学を中心とした研究体制も、そうした方向と軌を一にするものとして維持されてきた。しかしながら、昨今の個別・実際的な倫理の問題状況にかんがみて、今後は、よりアクチュアルな問題に対する研究体制の拡充も図られるべきであろう。学生の問題意識も、現実社会における個別の問題を視野に入れたものになってきている。

組織としての教育活動について

基本的には上の研究活動と理念を共にするが、もともと少人数である本専攻分野では、いわゆる世間の要求に即座に応える明敏な人材の育成というよりは、先に「人間存在そのものの原理的研究」と述べたように、社会の目立たぬ場所で人知れず世を支える骨太の人間の育成に励んできた経緯がある。この方向に沿って、研究成果をより広く市民一般にも開放する意図を持って、平成19年度は、倫理学専攻分野において全5回の「みやぎ県民大学」が開かれた。またこれを受ける形で、平成20年度および21年度には、「日曜大学」として、3週間に一度の定期公開講義を一般市民に提供している。

教員の研究活動（2007～2011年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

戸島貴代志「長い時・短い時」、『創文』2007年12月号、pp.1-5,創文社、2007

- 戸島貴代志「アリエナツィオン」、『『存在と時間』刊行 80 周年記念論文集』 pp.228-246、法政大学出版社、2007
- 戸島貴代志「出自」、『モラリア』第 15 号、東北大学倫理学研究会、2008
- 戸島貴代志「生命の上流」、『哲学』第 60 号,pp.83-99、日本哲学会、2009
- 戸島貴代志「オネスティー ベルクソンと世阿弥」、『モラリア』第 16 号、東北大学倫理学研究会、2009
- 戸島貴代志「ナレナイこと・ナラナイこと」、『創文』2010 年 3 月号、pp.1-5,創文社、2010
- 戸島貴代志「死への産声」、『生と死への問い』、東北大学出版会、pp.179-215
- 戸島貴代志「活撥発地」、『モラリア』第 18 号、東北大学倫理学研究会、2011
- 村山達也「創造するのとは別の仕方、あるいは意味の彼方に——ベルクソンとメルロ = ポンティにおける歴史哲学——」、『メルロ = ポンティ研究』第 12 号、メルロ = ポンティ・サークル、pp. 19-34、2007
- 村山達也「ベルクソン『直接与件』における自由をめぐる四つのテーゼ」、『実存思想論集』第 23 号、実存思想協会、pp. 157-174、2008
- 村山達也「ベルクソン『直接与件』における問題と実在」、『哲学』第 60 号、日本哲学会、pp. 279-293、2009
- 村山達也「ルソー『告白』 人間の自然」、左近司祥子（編）『西洋哲学の 10 冊』、岩波書店（ジュニア新書）、2009、所収（pp. 113-132）
- 村山達也「ベルクソン 継起・生命・問題」、伊藤直樹・他（編）『ヨーロッパ現代哲学への招待』、梓出版社、2009、所収（pp. 78-101）
- Tatsuya MURAYAMA, 'Portrait de famille? – Bergson et le dernier Wittgenstein', in F. Worms (éd.), *Annales bergsoniennes*, vol. V, Presses Universitaires de France, 2011 (à paraître).
- 大森史博「問いかけ メルロ = ポンティ後期存在論の射程」、『現象学年報』第 23 号、日本現象学会、pp. 71-79、2007
- 大森史博「実存的永遠性に向かって メルロ = ポンティにおける問いかけの帰趨」、『倫理学年報』第 57 号、日本倫理学会、pp. 245-259、2008
- 大森史博「現在と共存する過去 メルロ = ポンティのベルクソン解釈について」、『フィロソフィア・イワテ』第 40 号、岩手哲学会、pp. 1-17、2008
- 大森史博「生の標高を描きなおす 「倫理」への批判」、篠澤和久・馬淵浩二（編）『倫理学の地図』、ナカニシヤ出版、2010、所収（pp. 175-206）

1- 2 著書・編著

戸島貴代志 『創造と想起 可能的ベルクソニズム』理想社、2007

1- 3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

(書評)

戸島貴代志「鷺田清一著『思考のエシックス』ナカニシヤ出版」、『週間読書人』、2007年7月号

戸島貴代志「齋藤慶典著『知ること、黙すること、遣り過ごすこと』講談社」、『週刊読書人』、2009年2月号

戸島貴代志「渡邊二郎著『渡邊二郎著作集』筑摩書房」、『週間読書人』、2011年1月号

1- 4 口頭発表

戸島貴代志 「長い時・短い時」(シンポジウム)実存思想協会・ドイツ観念論研究会共催シンポジウム 早稲田大学/東京都、2007年9月29日

戸島貴代志 「『創造と想起』について」(書評会)ベルクソン哲学研究会、京都大学/京都市、2008年3月23日

戸島貴代志 「『死と誕生』について」(書評会)ハイデガー哲学研究会、東京女子大学/東京都、2008年6月29日

戸島貴代志 「ベルクソンを読み直す」(共同討議)日本哲学会、慶応大学/東京都、2009年5月17日

戸島貴代志 「或る死の記録」(シンポジウム)柳田國男五〇年祭記念シンポジウム、東北大学/仙台市、2011年11月19日

村山達也「自由・動機・理由——ベルクソンの自由論から——」、実存思想協会、東京女子大学、2007年6月

村山達也「戸島氏への質問」(「戸島貴代志『創造と想起』(理想社)合評会」での特定質問)、ベルクソン哲学研究会、京都大学、2008年3月

Tatsuya MURAYAMA, « Portrait de famille ? — Bergson et le dernier Wittgenstein », ベルクソン国際シンポジウム、法政大学、2009年10月

村山達也「空しさと儂さとその無意味さと」、東北哲学会、弘前大学、2011年10月

大森史博「沈黙と問いかけ メルロ=ポンティ後期存在論の射程」、北

日本哲学会、北海道大学、2007年1月
大森史博「共存する過去　メルロ＝ポンティのベルクソン解釈について」、岩手哲学会、岩手大学、2008年7月
大森史博「全体的な部分　メルロ＝ポンティにおける言語と表現の問題を手がかりに」、実存思想協会、学習院大学、2009年7月

2 教員の受賞歴（2007～2011年度）

村山達也、日本哲学会・若手研究者奨励賞、2008年度

教員による競争的資金獲得（2007～2011年度）

（1）科学研究費補助金

平成18年度～20年度 課題番号18202001 基盤研究(A)(一般)研究分担者
戸島貴代志(研究代表者 野家啓一)「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」28,650,000円(3年間総額)

平成21年度～23年度 課題番号21520002 基盤研究(C)(一般)研究代表者
戸島貴代志「対話の垂直性 ハイパーダイアログの包括的理解」
4,640,000円(3年間総額)

平成23年度～25年度 課題番号23720002 若手研究(B)研究代表者 村山達也
「ベルクソンを中心とした、1900年前後のフランスにおける「笑い」の哲学の研究」1,820,000円(平成23年度)

（2）東北大学若手研究者萌芽研究育成プログラム

平成18年度～19年度 研究代表者 戸島貴代志「大学間における工学倫理教育プログラムの改訂マニュアル作成 - 工学関連学会での倫理規定をふまえて -」2,000,000円(1年半総額)

（3）財団法人「風樹会」研究奨励金

平成18年度～22年度 研究代表者 齋藤直樹「ニーチェおよびアドルノにおける美的倫理の研究」2,800,000円(5年間総額)

教員による社会貢献（2007～2011年度）

戸島貴代志 「生あっての死、死あっての生」タナトロジー研究会、宮城県仙台市岡部医院、2006年2月23日

戸島貴代志 「生きられる死」みやぎ県民大学開放講座（実行責任者）東北大学、
2007年8月25日（本講座は倫理学専攻分野が世話役で9月22日まで全5回
で行われた）

戸島貴代志 「よく生きること、よく考えること」（第1回）ステップアップ開
放講座（実行責任者）東北大学、2007年12月1日

戸島貴代志 「よく生きること、よく考えること」（第2回）ステップアップ開
放講座（実行責任者）東北大学、2007年12月8日

戸島貴代志 「日曜大学」東北大学にて3週間に一度の定期公開講座、2008年4
月より2010年2月まで

戸島貴代志 「まことの花 身体の時間と心の時間」「みやぎ県民大学」東北大
学、2009年9月15日

戸島貴代志 「ひっかかりをもつこと」、仙台第一高等学校文化祭講演、仙台第
一高等学校、2011年8月27日

戸島貴代志 「ナレナイ・ナラナイ」、平成23年度SAカレッジ講座、東北大学
加齢医学研究所、2011年9月23日

教員による学会役員等の引き受け状況（2007～2011年度）

戸島貴代志 実存思想協会理事（2007年度～）

戸島貴代志 東北哲学会委員（2008年度～）

戸島貴代志 日本倫理学会年報編集委員・和辻賞選考委員（2009年度～）

村山達也 東北哲学会委員（2010年度～）

大森史博 東北哲学会幹事（2009年度～）

教員の教育活動

（1）学内授業担当（2011年度）

1 大学院授業担当

戸島貴代志 倫理学研究演習、

倫理学特論

課題研究

村山達也 倫理学研究演習 V、VI

倫理学特論 I

課題研究

2 学部授業担当

戸島貴代志	倫理思想基礎講読 倫理思想演習 倫理思想各論 倫理思想概論
村山達也	倫理思想演習 倫理思想概論 倫理思想各論

3 その他

なし

(2) 他大学への出講(2007~2011年度)

村山達也	国士舘大学(フランス哲学)(2007~2010年度前期)
村山達也	慶應義塾大学(倫理学)(2007~2010年度前期)
村山達也	学習院大学(フランス哲学原典講読)(2009年度)
大森史博	東北文化学園大学(環境倫理)(2009年度~)
大森史博	仙台白百合女子大学(生命倫理学)(2010年度)